

2022 年度活度方針要旨

<はじめに>

2年前の向井池東周遊路開設後、クラブは「また来たくなる公園」を公園づくりの次のテーマに掲げ活動を開始した。しかしコロナ感染拡大による全体活動と会議の制限や中止により、実質上アンケート止まりで「見どころ掲示板の設置」を除けば実行に至らず今年度を迎えた。

今年度のテーマについては再度検討する考えも有ったが、「また来たくなる公園」は判り易い言葉で公園の改善点を突いている。従いその根幹を継続しその実現を目指すのが適切と考えた。

さて、コロナ感染症による活動中止や縮小により、全体活動や全体会議の開催が大きく減少した。また開催しても参加人員が少なくかつ固定化が問題になっている。その他リーダーや役員のなり手不足が表面化している。

「また来たくなる公園」と言う統一のテーマを論議し実行する共同作業の中から、公園の認知の高まりと来場者の増加、クラブ員の遣り甲斐増大でこれ等が解決される好循環を期待している。

<活動方針>

A: 公園づくり

1. テーマ「また来たくなる公園」のターゲット
 - i 園内広場(てっぺん広場を含む)の整備
 - ・てっぺん広場:展望の確保、クヌギの広場:芝地化
 - ii 水辺の広場～隠れ池周辺部とハンノキ保護区、オオヤマザクラ
 - 主眼:・環境と景観保全 ・自然学習エリア ・竹林整備と樹林整備
 - iii 論議の進め方:全体会議でのグループ討議方式から入る。
 - iv 実行チーム:各対応チーム、混成プロジェクトチームを編成

B: 府との協働

1. 泉佐野コスモポリス跡地の土地利用についての提言丘(2006 年都市公園化を決定した委員会報告)で述べられている様に、丘陵緑地公園化決定時点で植生上最大の課題は拡大竹林の問題で有った。
クラブ創設以来クラブ活動に占める竹林伐採の割合は高く公園のオープンまではヤブの除去が有るものの竹伐採が活動の中心作業であった。現在でもコラボ地区の40%が竹林または木竹混合林であり、クラブの竹林整備作業もかなりの量である。都市公園でこのような竹林の多い公園は存在しない。拡大竹林は里地里山の手入れ不良と放棄地の象徴であり同時に生物多様性上も問題とされている。府は拡大竹林の低減に向けどのような考えと計画を持っているのか考えを聞かせてほしい。今のままの対処法なら一向に竹林の低減は見込めないと思う。
2. 竹林伐採跡地への植林を始めている。現在はコナラやクヌギ、アカマツ、一部イロハモミジを育苗し植林している。植林に当たって適地適木については前中先生に教えて頂いている。ただ我々クラブ員は地域種子採取について時期や方法、特に育苗についての知識に乏しい。また府職員で対応できる人はいないとのこと、外部で相談できる専門家を紹介いただきたい。
3. 作業地拡大に伴い竹林及び植樹地の維持管理負担が拡大しクラブで賄いきれなくなる。府は管理負担拡大に努めてもらいたい。

C: 棚田チームの「大人の農体験」

棚田の運営について、稲作を主作物に、植付け、草刈り、収穫から後片付けを一般参加者にしてもらい、チームがそのお手伝いをする方式で臨むことになった。棚田に継承と府民参画の両者を目指した試みである。成功に向け必要な支援を行う。

D: 女子の活動

天神川の草木染に始まり、自然ふれあいのリース作りや紙漉き等、女子による活動が活発になり参加者も増えている。この活動の一層の発展促進に努める。

E: クラブイベント(雨天翌日曜日に順延)

1. 4月16日(土)タケノコ堀、午後総会
2. 11月5日(土)秋の郷遊び
3. 12月17日(土)ミニ門松
4. 1月14日(土)正月の郷遊び

<共通スローガン>

1. 全体会議と全体活動に参加し、全員の意思と行動で物事を推進しよう。
2. 参加できなかったときは、専用ホームページで活動と会議内容を確認し情報を共有しよう。
3. 活動は安全第一、焦らず、無理せず二人以上で行動しよう。